



# 上越交響楽団 第55回・定期演奏会

Joetsu symphony orchestra

**会場** ユートピアくびき希望館

**日時**

2004年3月21日(日)  
■13:30開場 ■14:00開演

**指揮** 吉井 俊哉

**主催** 上越交響楽団



PASTORALE  
Peter & The Wolf





# ■プログラム Program Music description

## グリーグ [抒情組曲] 作品54

Edvard Grieg  
Lyric suite Op.54

### ■グリーグ:抒情組曲 作品54

- 第1曲:羊飼いの少年
- 第2曲:ノルウェーの行進曲
- 第3曲:夜想曲
- 第4曲:小人の行進

グリーグが生涯を通して生み出し続けたピアノ小品から編集された全10集「抒情小品集」より、第5集(1891年出版)をもとにオーストリアの指揮者アントン・ザイドルが管弦楽に編曲し、後にグリーグ自身が改訂したものが、この組曲です。  
詩的で憂鬱漂う第1曲羊飼いの少年から、民族的で活気溢れるノルウェーの行進曲、夢想的な抒情に満ちた夜想曲、そして激しく勇壮な両端部が優しげで愛らしい中間部を包み込む終曲の小人の行進まで、ノルウェーの風景が眼前に展開します。  
他にもいくつかピアノ小品から編曲されましたが、この組曲が最も高い人気を獲得しています。

## プロコフィエフ 子供のための音楽物語 「ピーターと狼」 作品67

Sergei Sergeevich Prokofiev  
A musical tale for children  
"Peter and the Wolf" Op.67

語り:綿貫 佳子

### ■プロコフィエフ:子供のための音楽物語「ピーターと狼」 作品67

プロコフィエフの代表作品で、子供向けの童話をナレーターが語り、それに合わせてオーケストラが各場面合った音楽を演奏する形で進行します。  
この作品の特徴は、物語の登場人物それぞれにテーマ音楽(モチーフ)があり、それを別々の楽器が担当している点にあります。

- 小鳥/フルート ●あひる/オーボエ ●猫/クラリネット ●おじいさん/ファゴット
- 狼/ホルン三重奏 ●ピーター/弦楽合奏 ●猟師の銃声/ティンパニと大太鼓

それぞれ、とても分かりやすい楽器の使用法です。物語の初めにモチーフの紹介があります。物語は次のように展開します。  
朝、ピーターが広い草地に出て行く。小鳥とあひるの登場。  
「空を飛べないおまえが鳥だなんて」「泳げないおまえが鳥だなんて」という絡み合いがあります。そこに猫が登場し、小鳥に忍び寄り。ピーターが「危ない」と叫び小鳥は舞い上がります。おじいさんが不機嫌そうに登場。「森から狼が来たらどうする」と小言。  
ピーターが立ち去った途端、本当に森から狼が登場。  
猫は木に登ったが、あひるは狼に捕まり、飲み込まれます。狼は小鳥と猫も狙おうとしています。ピーターは知恵を絞り、小鳥におとりになってもらい、その隙にしっぽを縄で捕まえて木に縛りつけることに成功します。  
その時森から猟師が登場して、銃声が鳴ります。ピーターは「撃たないで、僕たちが捕まえたんだ!」と叫びます。その後、お祝いの行進になり、それぞれの登場人物が順に出てきます。行進は次第に華やかな雰囲気になりますが、よく注意して聞くと、狼のお腹の中からあひるの音が聞え無事が知らされます。

## 休 憩

## ベートーベン 交響曲第6番へ長調 作品68「田園」

Ludwig van Beethoven  
Symphony No.6 F-major Op.68  
"Pastorale"

### ■ベートーベン:交響曲第6番へ長調 作品68 「田園」

ベートーベンの交響曲には、いくつか標題のついている作品がありますが、「田園」交響曲だけがベートーベン自身がタイトルを付けたものです。(シンフォニア・パストラレというネーミングです。)  
この曲は、ウィーン郊外のハイリゲンシュタットの初夏の情景を描いたと言われていますが、「絵画よりも、むしろ感情の表現」とベートーベン自身がこの曲について語っています。とはいえ、最初の数小節を聞いただけで、田園風景が目には浮かぶような極めて絵画的な曲であることは事実です。それは単に小川のせせらぎ、小鳥の鳴き声、嵐や雷など自然の音を模倣したものにとどまらず、心の奥底にある田園の自然への敬愛を表した音楽になっています。  
このように交響曲の全体を通して自然の描写を試みたのはベートーベンが最初であり、当時としてはとても斬新なことでした。  
「田園」は交響曲第5番「運命」と同時期に作曲されており、初演も同日に行われています。好対照の2曲ですが、後半の楽章が切れ目なく演奏されている点などは共通しています。ベートーベンの偶数番の交響曲は穏やかで明るい雰囲気曲が多いと言われていますが、その典型的な作品と言えます。  
各楽章には次のような標題がつけられています。

- 第1楽章/田園に到着したときの楽しい感情の目覚め
- 第2楽章/小川のほとりの情景
- 第3楽章/農民たちの楽しい集い
- 第4楽章/雷雨、嵐
- 第5楽章/牧人の歌、嵐の後の喜ばしい感謝の感情